

「救い主イエスの誕生 その2」

マタイ2:1～23 p2

今、私たちはキリスト伝として、主イエスの生きられた歩みを順を追って学んでいる。
その時系列に従うなら、先回のルカ2章39節前半の「^{しげいれつ}両親は、主の律法にしたがってすべてのことを成し遂げたので」と、後半「ガリラヤの自分たちの町ナザレに帰って行った。」を分け、その間にマタイの福音書2章の記事を挿入することになる。

つまりエルサレム神殿で、主イエスの両親は神の律法の行事を残らず成し遂げた後、ガリラヤのナザレではなく、もう一度ベツレヘムに戻ったのである。(家畜小屋と違う家なのかどうかは不明?)

ルカの救い主イエスの誕生の記事は、名も無い人々への神の導きで、個人的な記事である。しかし神は、マタイの「^{しじつ}東方の三人の博士の来訪」とそれに伴う「ベツレヘムの幼児虐殺」という社会的、歴史的史実として記録される、国家的重大事件を加えておられるのである。

星の導きに従い、はるばる東方から尋ねて来た異邦人の博士たち。ヨセフとマリアは彼らが救い主として我が子を礼拝する姿を見てどのように思っただろうか。全世界を支配される神の真実と、自分たちがその神の計画実行の只中にあり、救い主の親とされた光栄と責任をかみしめたのではないだろうか。そしてこの博士来訪により、貧しい二人はエジプトでの数年間の全ての必要を、黄金・乳香・没薬により充分備えられたのである。

また、三人の博士は夢で神からの警告を受け直ちに従った。帰途についた後、ベツレヘムの幼児虐殺事件を彼らが知った時、どれほど驚いたろうか。もう少しで、救い主を亡き者にしようとする悪魔の策略に自分たちも加担するところであった。自分たちの行動の全ては神のご干渉の中にある。何とありがたいことだろう。神の守り、ご配慮の確かさを思ったに違いない。

今生きる私たちも、確実に、この神の愛のご干渉の中にある。真っ直ぐに信じて従いたい。

[聖書の学び]

I、博士たちの来訪から見る三方面の人々 (マタイ2:1～8 p2)

1、「私も行って拝むから」というヘロデの言葉

(1)ヘロデ王が握って手放すはずがない「ユダヤ人の王」

①彼エドム人の血を引き、ユダヤ人ではない。古代ローマでは直接統治よりも従属する国王を通じた支配が好まれたので、ヘロデは紀元前40年に「ユダヤ王」に任命された。エルサレムに宮殿があった。

②エルサレムを特別区として統治するローマ直轄の総督と権力争いをし、張り合っていた。

(2)「私も行って拝むから」というヘロデの言葉の背後に隠されている思いは何でしょうか。 (マタイ2:8)

2、「ユダヤのベツレヘムです」とヘロデに教えた祭司長、律法学者（マタイ2:4～6）

*知識はあるが、彼らが礼拝に行った様子はない。敬虔の形はあるが、真の敬虔ではない。

3、純粋なまごころをこめた博士たちの礼拝

(1)星に導かれ、命がけではるばるやって来た、彼らの目的は何でしょうか。（マタイ2:2、9、10）

(2)ある家に星がとどまった事を喜んだ彼らは、貧しい家の子として生まれた主イエスを見て、どうしましたか。（マタイ2:11）

Ⅱ、神の計画に用いられた博士たちの来訪（マタイ2:12～23）

1、博士たちは神からの警告を受け、どのようにしたでしょうか。（マタイ2:12）

2、ヨセフとマリアが夢での警告を受け、エジプトへ行くことは、どのような意味があるのでしょうか。（マタイ2:13～15）

(1)聖家族が守られるため。

(2) 旧約聖書の預言が成就するため（マタイの預言成就の記述 ②～④ ①＝ヨセフの夢、インマヌエル）

②エジプトへ行く ホセア 11:1 旧p1547

③ベツレヘムの幼児虐殺 エレミヤ 31:15 旧p1349

④ナザレ人と呼ばれる(直接の出典箇所不明) イザヤ 9:1、2 旧p1180

3、旧約聖書の一つ一つの預言の成就是、私たちに何を指し示すためだと思いますか。

* ディスカッション（心を開いて話し合ってみましょう）

Q. 今日学んだことについて、思うこと、教えられたことを、分かち合いましょう。